

令和6年度 はじめての人（入門レベル）のための日本語教室 報告書（概要）

1. 事業概要

(1)趣旨

市内の日本語教室で学ぶ学習者数は延べ397人（令和6年4月1日現在）で、この数は日本語学習を必要としないと考えられる外国人市民※を除いても約4%にとどまる。このため、外国人市民の日本語学習の需要を掘り起こして地域の日本語教室につなぐことが必要であると考え、平成25年度より市主催で「はじめての人（入門レベル）のための日本語教室」を実施し、本教室で学習を終えた外国人市民を地域の日本語教室につなぐ形で事業を実施している。

同時にこの場を市内で活動する日本語ボランティアが1対複数での日本語学習支援法を習得する研修の場とするとともに、ボランティアどうしの横のつながりやプロの日本語教師とボランティアのつながり、行政とボランティアの顔の見える関係づくりの場としても活用する。

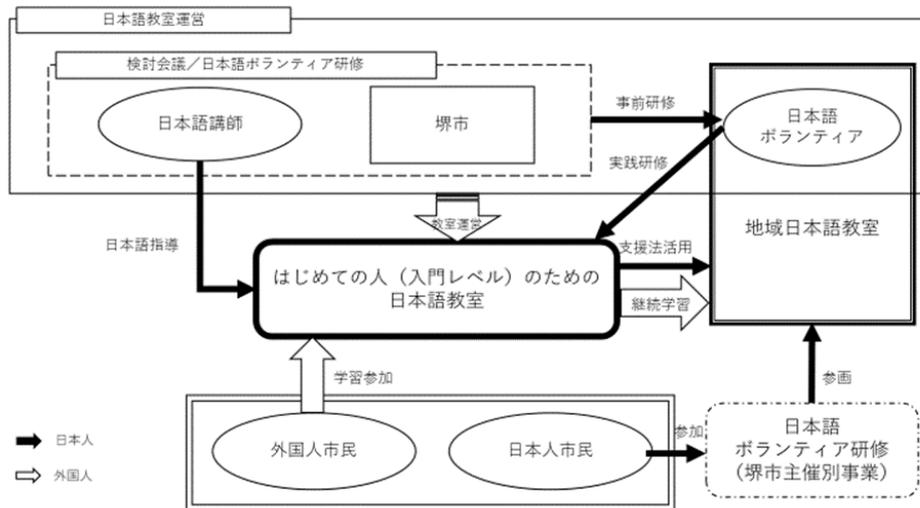
※平成29年度の堺市外国人市民意識調査で50.9%が「日本語学習を必要としない」と回答

(2)実施スケジュール

検討会議を開催して昨年度事業の振り返り及び今年度事業の実施方法等について検討した。また、日本語ボランティア実践研修参加者（アシスタント活動者）の増加及び本教室で使用している教材「つながるにほんご」やこれを活用した学習支援法の普及を目的に「日本語ボランティア実践研修」に先駆けて、「日本語ボランティアスキルアップ研修」を実施した。すべての事業終了後に総括を行った。

8月	検討会議
9月	日本語ボランティアスキルアップ研修
9月	日本語ボランティア実践研修 講義
10月～11月	日本語教室、及び日本語ボランティア実践研修 実践
12月	総括会議

(3)事業スキーム



2. 実施実績

<日本語教室>

目的：・入門レベルの日本語能力の人が地域の人と人間関係を構築できるようになる。
・入門レベルの日本語能力の人が地域社会に踏み出せるようになる。

開講日時：令和6年10月4日（金）～11月29日（金）

毎週火曜・金曜 14:00～16:00（全15回）

授業内容：・自己表現のための日本語表現及びそれに伴う文法項目の習得
・習得した日本語表現を活用した会話練習（実践）

- ・「駅での会話」「病院での会話」など特定の場面での会話練習

開講場所：堺市立多文化交流プラザ・さかい 会議室（大）

学習者数：16人（中国9人、フィリピン2人、ブラジル2人、パキスタン1人、フランス1人、ペルー1人）

<日本語ボランティア実践研修>

目的：・入門レベルの学習者への話し方や接し方、学習支援の方法を学ぶ。

- ・マスターテキストアプローチによる学習支援や場面会話、対話型活動の方法を学び、1対複数での日本語学習支援法を習得する。

開講日時：<a. 事前研修>

令和6年9月17日（火）、令和6年9月24日（火）14:00～16:30（全2回）

<b. 実践研修～授業にアシスタントとして従事～>

令和6年10月8日（火）～令和6年11月29日（金）

毎週火曜・金曜のうち、指定された4～10日

13:50～16:20（打合せ・振返りの時間を含む）

（火曜日は6人、金曜日は4人が従事したが、原則として、金曜日の従事者は、同一週の火曜日に従事した者の中から4人を従事者として指定した）

研修内容：・入門レベルの日本語学習者に対する話し方や接し方

- ・マスターテキストアプローチによる学習支援法
- ・場面会話及び対話型活動の進め方

開講場所：堺市立多文化交流プラザ・さかい

受講者数：11人（市内日本語教室等で活動している日本語ボランティア）

3. 成果と課題

(1)成果

まず、学習者について、本教室は教材も授業内容も本市独自のものであり、これまで学習者そのやり方に慣れるまでに多少の時間がかかることが課題だった。そこで、今年度初回のガイダンスでそれらを説明する時間を設けたところ、多くの学習者が活動の狙いを理解し、初めから授業に集中して取り組めるようになった。15回という短期間で行う教室では、特に早めにやり方を理解して練習に取り組むことが必要になる。来年度以降も継続して実施したい。

次にアシスタント活動について、昨年度アシスタントよりトピック会話での学習者とのおしゃべりの方法を悩む声が上がっていた。また、グループ活動や1対複数での練習が1対1になってしまうことも課題だった。そこでまず、トピック会話については、授業の数日前にアシスタントに話す内容のテーマを伝えた。これによりアシスタントが事前に活動の準備ができるようになり、最終アンケートでもおしゃべりを悩む声はなかった。また、グループ活動や1対複数での練習については、そのコツを講師から機会あるごとに伝えた。これによりアシスタントも徐々にその方法を体得できたようで、今年度の後半には多くのアシスタントがグループ活動や1対複数での練習ができるようになった。ボランティア不足に悩む地域の教室での活用も促したい。

(2)課題

まず、学習者に地域日本語教室の情報を伝えきれていない点を課題としてあげたい。本教室では事業終了後の学習者を地域日本語教室につなぐことを目的の一つとしており、第11回と12回の間地域日本語教室の情報を職員から伝える時間を設けているが、開催場所や時間を示した一覧MAPの見方の案内にとどまっており、個別に学習者の希望を聞く時間は設けられていなかった。来年度はアシスタントにも協力を依頼し、個別に希望を聞きながら対応できるように考えていきたい。

次に、アシスタントのフォローアップ研修である。アシスタント活動では、毎回事前打合せや振返りを行い、疑問点はその都度解決できるようにしているが、本教室を離れた後に疑問点が出てきたときのフォローはできていなかった。研修の開催までは難しいかもしれないが、事業終了後にアシスタントが講師と話せる機会をつくれぬか検討したい。